第 7 戦

AUTOPOLICE GT 3HOURS RACE

オ ー ト ポ リ ス

予選 **10月17日(土)**

天候：晴れ　コース状況：ドライ

第7戦オートポリスは10月17～18日に開催。今回も80kgというサクセスウェイトだが、50kgのウェイトを搭載し、決勝中の給油リストリクター制限を受ける。2戦連続でノーポイントに終わっているだけに、今回は予選から上位につけ開幕戦以来の表彰台を獲得したいところ。このレースは5月の第2戦富士同様、3時間の長いタイムレースとなるが、予選では優勝争いに食い込める2列目以内を狙った。

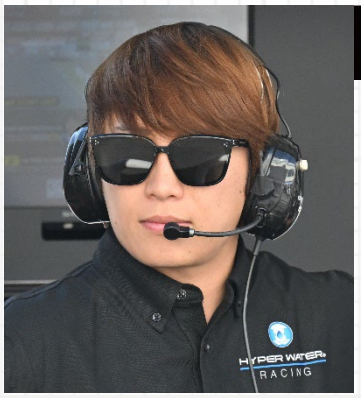
予選：2位

ようやく秋らしい天候になった九州地方。しかし朝晩は冷え込むものの、昼間は日差しも強く気温も20℃を超えるような陽気となった。朝の公式練習はやや雲はあるものの晴れ、気温21℃、路面温度23℃、冷たい北風が吹くコンディションの10時30分にスタートした。まずは堤優威がコースインして車両のセッティングとタイヤを確認。7周目に1分44秒485で2番手につけた。セッション中盤には雲ひとつない快晴となり路面温度も徐々に上がり、GTマシンでのオートポリス初走行となった卜部も1分44秒898とまずまずのタイムをマークした。

14時30分、晴れ、気温23℃、路面温度29℃のコンディションで公式予選はスタートした。今回HYPER WATER INGING GR86 GTは15台からなるA組に区分。卜部がコースインして3周かけてタイヤを暖め4周目に3番手タイムとなる1分44秒325をマーク。難なくトップ9に入りQ1を突破した。

Q1のA、B組上位18台で決勝のグリッドを争うQ2は、気温26℃、路面温度32℃の15時23分に始まった。10分間の計測開始が4分半経過した時点でピットアウトした堤は、セッション終盤の一発アタックを狙い2周かけてタイヤを暖め3周目に1分43秒061をマーク。トップとは0秒384差の2位となった。しかしQ1でアタック中の車両の走路を妨害したとして、決勝グリッドは2つ降格。決勝は2列目4番グリッドからのスタートとなった。

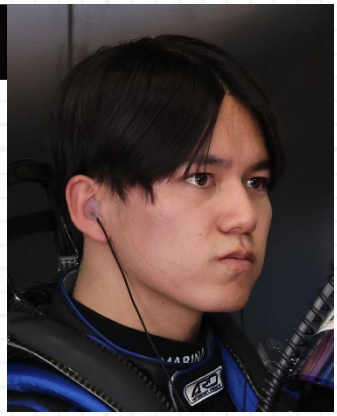
18日の3時間レースは、13時10分にスタート予定で表彰台を目指し戦っていく。



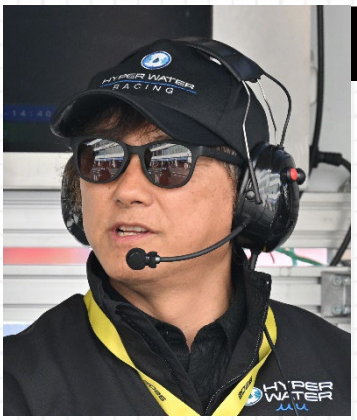
ドライバー　堤　優威

「最後にコースインしてトラックのコンディションが上がった時にアタックをしたのは狙いどおりでした。僕のアタックとしては最近一番まとまったぐらい良くて正直自分のタイムを見た時はポールを獲ったと思ったんですがモニターを見たら2位で、公式練習のタイムどおりでした。(ポールの車両とは)クルマもタイヤも違うのでしょうがないですが、明日のロングは速いと思います。グリッドはQ1のペナルティで2位から4位に落ちてしまいます。52号車スープラの前でスタートできれば勝てる可能性も高いと思ったのですが、諦めずにふたりで頑張ります」

ドライバー　ト部 和久



「コースインからウォームアップとクリアな位置で走れていましたが、後ろから6号車フェラーリが来ていてそれがまさかのアタック中でした。ちょうど日差しが当たってバックモニターが真っ白になり周りを見切れなかったのは自分のミスです。アタックを邪魔したことで2グリッド降格というペナルティを受けました。アタック自体は可もなく不可もなくという感じでまとめることはできましたが、攻めきれなかった部分もあり、次は100点のアタックを目指します。明日は自分のミスを自分で取り返すことができるよう、頑張りすぎることに気を付けて頑張ります」



監督　加藤 寛規

「鈴鹿、SUGOとここ2戦の結果が悪かったので、その部分を見直して来たのが良い結果につながったのだと思います。予選で2列目までに入ることができればチャンスはあると思いますし、最低限そこは守れたので、明日はしっかりクルマ、ドライバー、タイヤも含めたパッケージというウチのチームの強みをレースで出したいなと思っています。長いレースなのでSC(セーフティカー)FCY(フルコースイエロー)が出たりするタイミングも充分考えられますし、荒れたレースになることも多いので、そこをフレキシブルに対応していきたいですね」